

奉祝「令和」記念事業

本年五月一日、天皇陛下の御譲位に伴い、新元号「令和」に改元されました。

新たな時代の幕開けをお祝いし益々の弥栄を御祈念申し上げ、奉祝事業を立ち上げます。

令和の大しめ縄の掛け替え事業

改元を記念して当分祠の大しめ縄の掛け替えを六年ぶりに実施する。製作は出雲大社神楽殿（島根）にある日本最大級の大しめ縄の制作で有名な大しめ縄なわ創作館（島根県飯南町）で現在制作中である。

飯南町では、昭和三十一年代から、およそ六年ごとに雲大社神楽殿の大しめ縄の制作が行われ、特殊なしめ縄づくりの技術と伝統が受け継がれている。その巨大さから材料の稲穂も特大しめ縄製作専用の特別な赤穂が栽培され使用されている。



【出雲大社神楽殿（島根）の大しめ縄】平成30年7月に製作した出雲大社神楽殿（島根県）の「大しめ縄」。の大きさは日本最大級で全長13.5メートル、重量4.5トンに及びます。一年以上の歳月と延べ千人の飯南町民の手によって作られています。

令和の開運さくら茶

新元号を記念して、新たに秦野名産の桜を利用した開運さくら茶の製作を開始。

「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められている」との発表がされた。日本最古の和歌集である万葉集「梅花調



卅二首并序」が典で、「初春の令月にして気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」という言葉に由来され、美しく花が咲き女性的な印象を受ける。

さくら茶とは、梅酢と塩で漬けた桜の花にお湯を注いだ飲み物であり、味だけでなく見た目も楽しめる。お湯の中で花びらが開いていく様子は、縁起よく結納や出産等の慶事に重宝される。

当分祠の鎮座する秦野は全国的にも有数の食用桜の生産地。毎年春には当分祠の有志信徒の協力で秦野の里山にて丁寧な桜を採取し塩漬けにして利用する。現在、秦野名産の桜を用

令和の永代供養墓の新設事業

いたオリジナル金平糖を製作し特別授与品として頒布している。

平成三十年七月、秦野市渋沢丘陵に新たに竣工した湘南森林霊園。県西最大級の広さとなりおよそ東京ドーム十個分約二十万㎡の敷地となる。

従来の墓石が建ち並ぶ霊園ではなく、秦野の自然や里山の環境になじむ樹林帯を多く配置した森林墓地となる。墓域の八割は樹木や自然芝の緑溢れるエリアとなり、公益財団法人相模メモリアルパークが事業主体である。現在その中に当分祠専用の神道型永代供養墓の造成を進めている。

三十八㎡となる当分祠の永代供養墓は自然石の墓石と芝生の斎場を備えたシンブルなデザイン。本年秋のお彼岸迄に完成予定。現在、当分祠には相霊社に納骨堂があるが、最終的には秦野の里山に還るべく新たな相霊祭祀を模索していきたい。今後、詳細の運用規則を定め、積極的に永代供養を受け入れやすく鋭意計画中である。

※令和元年竣工予定。



第二回 秦野元気まつり開催



秦野を元気づけよう！との思いから神奈川県秦野市を中心に活動をすすめる飲食店・クリエイターの集団、丹沢マルシェが企画運営して《第一回秦野元気まつり》が四月七日に当分祠を会場に開催された。今回は秦野市役所、秦野市商店会連合会、秦野市西商店会連合会、iCOO秦野伊勢原局、出雲大社相模分祠、丹沢マルシェの六団体で実行委員会を作り、約四〇店舗の飲食店・クリエイターが参加する県西地区でも初となるであろう大規模なソーラン祭り

で、県内外から洗練された十一チーム三〇〇人が参加し華やかに賑々しく奉納演舞を披露した。よさこいソーラン祭りは、高知県の「よさこい祭り」をルーツに平成四年、よさこい祭りの「鳴子」と北海道の民謡「ソーラン節」をミックスして誕生。色とりどりの衣装を身にまとい、鳴子を手にした踊り手が、ソーラン節のメロディに合わせて演舞する。

参加チームのオリジナルティあふれる演舞が魅力で当日は午前午後休みなく奉納演舞が続けられ、約二千人近い来場客を魅了した。当日の様子はケーブルテレビでも放送され、YouTubeでも配信されている。

幅広い文化交流を通じて日本の伝統に触れたい。来年以降も益々力を入れて続けていく予定であり、必見注目の行事である。

【秦野元気祭の参加団体】HADANO 乱舞「翔」・横浜旗士道・伊澤屋・猿子舞隊猿楽・舞陣・聯・聯坊童子・東海大学 響・どくとん Coco de 踊らん会・躍動

大花見会 復興祈願祭

四月一日午後六時より本年度七回目となる出雲大社相模分祠恒例の大花見会が斎行された。当日あいにくの雨の中であるが隣接出雲記念館にて開催。平成二十三年の東日本大震災を受けて、チャリティーの花見会を開催し、その収益を宮城県名取市にある閑上（ゆりあげ）地区湊（みなと）神社の復興支援として寄付している。大花見会に先だって十七時三十分より、御社殿にて草山清和分祠長斎主の下、東日本復興祈願祭を斎行した。



【平成三十一年協賛】（順不同・敬称略）美奈室 レスポール（伊）イグミ物産（伊）斎藤衣装店 ギャラリー由（伊）タウンニュース社・和菓子八雲庵・杜のとうろく三河屋（伊）山藤吉商店（伊）やなぎ家（伊）小野印刷工業（伊）アンダーンテ・手打ちそば石庄庵・社会福祉法人進和会南秦野保育園（伊）吉央（さちお）うすびなつおら・ケイエルコーポレーションシャトレーゼ秦野渋沢店・西湘イベント商業協同組合・笠原 良夫 照子・はだの南レイズクリニック・崇敬会の皆様・野口さん（名古屋）謹んで感謝申し上げます。

KUSAYAMA
SHADATANE

草山貞胤

～ 明治維新一五〇年 明治神道人の足跡 ～

幕末から明治維新を経て、日本が近代国家へと成熟する中、当時の日本社会は鎖国が解かれ欧米より様々な文化風習が入り、日本の伝統文化が入り乱れる明治激動の変革期でもあった。当時、古典でもあった古事記・万葉集等を研究すること、古代日本の思想・文化から日本人の心の在り方を示した明治の神道家に焦点をあてて、知られざる活躍に今一度注目致したく、明治維新一五〇年のこの機会に当世の神奈川の神道人について論説したい。

明治時代の神道

国学の四大人とも数えられる平田篤胤【ひらたあつたね】は、天地開闢論、産霊観念、幽冥信仰など独創的な解釈から、平田神道ともいわれる独自の神学体系を作りあげた。のちに平田学派は地方の豪農層・神官らに広まり、民衆に大きな影響を与えた。

福住正兄を仰ぐ

はじめに平田篤胤の没後門人でもある福住正兄【ふくずみまささへ】（平塚出身）を紹介したい。

草山貞胤【くさやまさだたね】は、生涯を通じて同郷の福住正兄を師であり、兄として仰いだ。

正兄は二宮尊徳（小田原出身）の弟子で、富田高慶、斎藤高行、岡田良一郎とともに「尊徳門下

の四高弟」のひとりといわれた。神奈川県平塚市片岡にて大澤家の五男として生まれ、幼いころから儒学、和歌、国学を修め十三歳で四書五経の素読を完了したという。二十一歳のとき医師を志すが、その気持ちを父・市左衛門に告げたところ「国の病を治す医者となるがよい、そのためには尊徳先生のもとで実地に修行したらどうか」とすすめられて、弘化二年（一八四五）尊徳門下生になった。以後五年にわたり尊徳の身辺の世話をしなから「報徳仕法」を学んだ。嘉永三年（一八五〇）その門を辞し、家運が傾いていた箱根湯本の旅館・福住の婿養子となり、九蔵（福住正兄）と改名しここで師尊徳の教えを実践すべく旅館の再建に乗り出す。尊徳の思想の柱は、「誠実勤勉に働いて収入を増やし（至誠、勤勞）、収入に応じて支出に限度を設け（分度）、余裕を生みだし、その蓄えた余裕を次世代や地域のために譲っていく（推譲）」というもので、既存の国学の枠にとどまらない道徳と経済観念をそなえた実践的な教えであった。福住は報徳の実践をもって箱根の温泉旅館の発展に努め、湯本村の振興に尽力した。明治維新後、福住は箱根の地域振興のため土木事業などの公共事業に積極的に取り組み、

明治十五年（一八八二）小田原箱根湯本間に近代的な道路を設置し、馬車、人力車の往来が可能となる日本初となる有料道路を竣工した。また、明治二十年（一八八七）には、国府津箱根湯本間の馬車鉄道の敷設、さらに電信機や電灯発電の導入にも尽力した。明治二十五年（一八九二）には関東地方最初の水力発電所が完成し、文明の灯を旅館街に灯した。福住のこうした努力によって、全国屈指の観光地となる箱根の礎を築いたといえる。「箱根開発の父」「箱根近代化の父」ともいえるべき功績で、報徳の教えの実践をもって箱根開発とともに生きた生涯であった。

秦野たばこの祖

福住正兄の遺訓を継いだのが農政家神道家、草山貞胤（秦野出身）である。貞胤は、文政六年（一八二二）に相模国大住郡平沢村（現・秦野市平沢）に出生した。草山家は、鎌倉時代より代々産土の御嶽蔵王社【みたけさおうしゃ】（現在の御嶽神社）にたけじんじんの社家であった。当時、近隣の寺子屋でもあり、幼少の頃から父に習って習字や素読を学んだ。後に、慶応三年（一八六七）に小田原藩士・吉岡信之に国学を学ぶために小田原へ赴き、さらに明治六年（一八七三）貞胤五十歳

の頃に二宮尊徳の一番弟子である福住に報徳仕法を学んでいる。貞胤は安政五年（一八五八）、三十六歳の時に神祇伯白川殿より跡目許状を受け御嶽神社の祠職を継ぎ、十九社の神社を兼務したという。その中に片岡神社（平塚）があった。正兄が片岡神社の氏子であったことから縁故を得て、貞胤は正兄からその教えを学び、最も信頼の厚い門下生の一人となった。秦野は、古くから「はだの煙草」「相模たばこ」の産地として名を馳せていたが、当時は耕作主たちが各々栽培法を秘伝にしていたため、品質に差異が生じていた。貞胤は神職の傍らその格差をなくす為、秦野煙草の改良に専念し、自ら正条密植法・秦野式改良苗床・水車によるたばこ刻み器の発明などを研究、その成果を耕作主に伝授して品質の安定を図り、秦野煙草を確立させ、「秦野煙草の祖」と謳われるようになった。

明治五年頃になると秦野たばこは鹿児島県国分の国分葉、茨城県久慈の水府葉と肩を並べ全国三大銘葉とも知れ渡り、「国分（鹿児島県）たばこは氣候で、水府（茨城県）たばこは土壌で、秦野たばこは技術でもつ」として全国の愛煙家に高く評価された。秦野地方は宝永年間の富士山の大噴火により蓄積した火山灰の影響で、稲作や農作に適さない荒れた土壌にも拘らず、耕作者が一丸となり煙草栽培・製作の為、努力と改良を重ね、全国に認められるまでに至った。高い技術に裏打ちされたその栽培方法は全国的にも広まり、貞胤はじめその門下生が埼玉、愛知、東は福島から西は島根まで諸県をまわって秦野式煙草栽培法を指導するようになった。

また、いち早く環境問題に着目し、各地で植樹活動などを行ったとされる。当時、商品作物としての煙草の価値は非常に高く、国家管理のもと専売公社によって経営され莫大な富を生み出したという。貞胤は煙草がまだ自由市場であった時に様々な改革を考案し、煙草生産全体にわたって先駆的な役割を果たしたと言える。明治十五年には全国農談会にて農業技術の改良発展を図る全国組織「大日本農会」が発足され、貞胤は大日本農談会員を委託された。この当時からのちに内務大臣になる品川弥二郎などの農商務省官吏とも関わりをもつようになったとされる。この時、元老員で出雲大社教管長でもある千家尊福との縁を得た貞胤は、出雲大社教の教えを受け、明治二十一年「出雲大社相模分院」を創立した。

報徳二宮神社の創建

明治二十四年、貞胤は正兄とともに尊徳を祀る神社の創建に乗り出した。当時の国家神道の体制では個人が没後に人霊として神社で奉られるという思想は必ずしも一般的なものは言えなかった。貞胤は煙草栽培などで得た私財を投じながら各報徳社の協力を仰ぎ神社建設に向けて奔走した。

その結果、明治二十七年、小田原城内に報徳二宮神社を創建、志なかなで帰幽した中心人物の福住正兄の遺言に従い、貞胤は報徳二宮神社初代社掌に就任した。

貞胤の俊素質直の人柄は人々の敬仰する所となり、後年、大日本農会会頭小松宮彰仁親王より緑白綬有功章・明治天皇裁可のもと賞勲局より緑綬褒章を下賜された。晩年にわたり生涯報徳の教えを忠実に実践していたが、明治三十八年八十三歳にてその生涯を閉じた。

現在、秦野地方の煙草栽培は衰退し、国策により昭和五十九年をもって煙草耕作はやむなく終焉を迎えた。秦野の里山をうめつくした煙草畑も消え、秦野たばこは技術でもったこの誇り、その想いは毎年秋に市民をあげて盛大に開催される「秦野たばこ祭り」にその名を残すだけとなった。

幕末明治という激動の時代を勤勉な人柄をもって生き、報徳の教え、大社教の教えをもって農政改革を実践し、社会に貢献し続けた貞胤の生き方は高く評価され、福住正兄とともに神奈川県史上活躍した「かながわの100人」にも選ばれている。生家である秦野の故郷には、今も変わらず御嶽神社、出雲大社相模分祠が祀られ、その教えを実践し信仰を絶やすことはない。

※本論考は『神社新報』（平成三十年十一月発行）に寄稿したものを加筆修正したものである。

御嶽神社神官
出雲大社相模分祠副長
草山和泉



▼出雲大社相模分祠境内に建つ「社家十五代 草山貞胤翁銅像」

夏越の大祓のご案内

～茅の輪くぐりの神事～

六月の晦日、恒例の夏越の大祓（おおはらえ）並びに茅の輪くぐりの神事を斎行致します。どなたでもご自由に参加できます。ご参列下さいますようお願い申し上げます。

六月
二十三日（日）午後三時
二十九日（土）午後三時
三十日（日）午後六時
七月
七日（日）午後四時

◆ 玉串料 茅の輪飾り三〇〇〇円（一世帯）
◆ 授与品 茅の輪飾り・御神菓

古来我々の先祖は、毎年半年ごとに「大祓」によって心身を清浄にし、新しい半年の幸せを祈願しました。この祭儀に先立ち「人形・車形」をお届け致しますので、家族のお身体・お車をお清めになった後、同封の返信用封筒にてご返送いただくか、大祓当日にご持参下さい。新しい一年の一層の「幸せ」のご縁をお授かりになりますようご案内申し上げます。

出雲大社相模分祠長 草山清和



夏越の大祓とは

大祓神事の歴史は古く、もっとも古い神道儀礼の一つでもあります。大祓神事の際に奏上される大祓詞（中臣祓）は平安時代の法律書「延喜式」（九二七年）に記載され、古代豪族の中臣氏が司る宮中行事でもありました。人が生きる上で知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを取り除き、災厄を避け心身を清らかにすることを目的とした神事です。毎年六月の晦日、十二月の晦日の年二回行い、半年ごとの罪穢れをお祓いします。わけでも、江戸時代以降はこの六月の夏越の大祓には茅の輪くぐりの神事を斎行し、広く江戸の庶民に広まったとされ、日本中の神社で斎行される伝統行事となりました。

当分祠でも毎年欠かさず斎行する恒例行事であり、大きな茅の輪くぐりを製作しております。初夏に奉仕会の有志が秦野盆地の山に赴き茅を切り出し、それをシュロ紐で結びつけ人がくぐれるほどの大きな茅の輪を製作します。これが大変難しく茅の具合や締め付けの強さなど細心の注意を払う必要があります。均一な太さに編み込むには熟練の手法が必要とされます。《茅の輪くぐりの作法》大祓の際、茅の輪をくぐる時、必ず左右左と三周廻り、古式豊かな抑揚

で和歌を唱えることが作法とされます。

「みな月の夏越の祓えする人はちとせの命のぶといふなり」一周目
「思ふ事みなつきぬとてあさの葉をきりにきりてもはらひつるかな」二周目
「宮川の 清き流れに 祓せば 祈れること の 叶はぬはなし」三周目

夏越の大祓神事には例年百人以上の参詣者で賑い、和歌を歌いながら行列を組んで茅の輪を三周廻ります。茅の輪くぐりの神事を終えると、社殿に昇殿し改めて大祓詞を神職の先導の下、参拝者全員で唱和します。初めての人でも一度練習してから皆様で唱和頂くので安心して参加頂けます。年々参加者も増え、日数回数を増やして大祓の神事に取り組んでおりますが、多いときには社殿に入りきれないほどの盛況ぶりです。当日参加の方はお早めに受付をお済ませ下さいませ。

【ご来社される場合】
当日ご参列の方は人形（ひとがた）・車形（くるまがた）をご準備の上、玉串料（三千元）を添えて授与所・受付までお越し下さい。（予約不要・当日参加可）大変混雑しますので二十分前にはお越し下さい。
【当日不参加の方】
当日ご参加できない方は事前にお預かり致します。人形・車形・玉串料を封筒に入れてご持参下さい。
【郵送される場合】
ご参列の叶わない方は郵便振込にて玉串料の三千元をご送金下さい。後日、記念の縁起物を発送致します。

なんで茅の輪をくぐるの？

その答えは出雲神話（備後国風土記）に伝えられております。ヤマタノオロチを倒した素戔鳴尊（スサノオノミコト）が、旅をしている途中、蘇民将来（ソモンシヨウライ）、巨旦将来（コタンシヨウライ）という兄弟に宿を求めたところ、弟の巨旦将来は宿福であつたにも関わらず宿泊を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は貧しいながらも喜んで厚く饗しました。その数年後、再び蘇民将来のもとを訪ねた素戔鳴尊は「もし悪い病気が流行ることがあった時には、茅で輪を作り腰につければ病気にかからない」と教えられました。そして疫病が流行したときに巨旦将来の家族は病に倒れましたが、将来の家族は茅の輪で助かったというのです。この言い伝えから「蘇民将来」と書いた紙を門に貼るとい

う信仰が生まれました。茅の輪も当初は伝説のとおり小さなものを腰に付けるというものでしたが、江戸時代初期になり、大きな茅の輪をくぐって罪や災いと取り除くという蘇民神事になったと言われています。

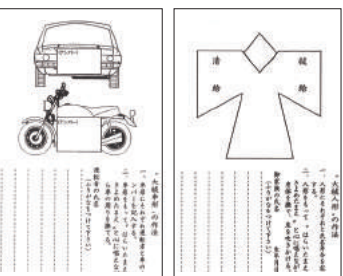


◆授与所にて頒布【1000円】

人形・車形の使い方

人形（ひとがた）とは古くより祓や祓をする時に人間の身代わりとして用いてきました。無物（なでもの）ともいい厄を移した後、川などに流していました。

当分祠では夏冬の大祓の際に、人形（ひとがた）・車形（くるまがた）を形代（かたしろ）にして自らの罪穢れを移しお祓いします。人形の紙に氏名を記入し、息を三回吹きかけ、頭から全身気になる場所を撫でこすり、悪い気を取り移してお祓いします。また、車形に氏名・ナンバーを記入し人形同様に愛用してあります乗用車、二輪、バイクなどの四方を撫でこすりて罪穢れをお祓いし、当分祠にお納め下さい。大祓神事の際、身代わりとしてお清めした後、忌火をもってお焚き上げします。（人形・車形は授与所にもご用意しております）



※夏越の大祓の締め切り
七月末日迄

七五三詣のご案内



▶七五三写真展

七五三のお祝いとは、子供たちに元気に育ってほしいとお祈りし三歳、五歳、七歳と成長する様をお祝いの儀式です。

七五三には三歳の男女の「髪置き」、五歳男子の「袴着（はかまぎ）」、七歳女子の「帯解き」のお祝いで、三歳・五歳・七歳の三つの祝い事をまとめて「七五三」と呼びます。

◆御祈願料
二万円七千円・五千元
お子様の授与品として福袋（おもちゃ入り）・御守・千歳飴を授与。二万円以上「神話紙芝居」授与。

◆祈禱受付時間
八時四十分～十六時三十分（事前の予約は不要）
◆耳寄り情報
十月より境内に期間限定で《七五三限定記念写真スポート》を設営します。（無料）

※出雲記念館にて会食着付け記念写真をご用意できます。【要予約】
※土日祝日は九時・九時半・十時・十六時半と三十分毎を目安に御祈願を斎

行します。ご家族様お揃いの上受付をお済ませ下さい。
※平日は随時お申込みの順にて斎行します。十・三十分程度の待ち時間になります。
※混雑時は上記の限りではありませんのでご了承願います。また時間ごとに最大二十四組ご一緒に社殿で御祈禱を斎行します。

※お付添いのご家族・おじいちゃん・おばあちゃんも一緒に昇殿する事が出来ますが、七五三詣はお祝いのお子様为代表ですので保護者様一名お付添いの上前方のお席にご案内し、その他のご家族様は後席にご案内します。土日の混雑時は御付添いの方のお席が足りない事もございますのでご容赦下さい。
・七五三（帯直し）は暦の上では通常十一月十五日といわれますが、九月下旬から十二月中旬までの期間で来られる方が多いです。
御都合のよい時期にお越し下さい。それ以外の時期はお問合せ下さい。